

(一財) 東京都スキー連盟
会 員 各 位

(一財) 東京都スキー連盟
競技本部長 山崎 智広

東京都スキー連盟 主催および公認大会における
アルペンスラローム競技における競技者が止まった後の継続禁止について(お知らせ)

日頃より東京都スキー連盟の活動にご協力賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標題の件につきまして通知いたします。

令和 6 年 10 月 18 日付で S A J より発出された「スラローム競技におけるスイッチバックの禁止について(お知らせ)」に基づき、東京都スキー連盟競技本部にて検討した結果、東京都スキー連盟主催および公認大会においても同ルールを適用いたします。

ただし、A・Bクラスへの適用については大会毎に T C M 及び公式掲示にて告知いたしません。

なお、本件についての詳細情報は、「2024-2025 アルペン競技ハンドブック第 2 版」をご確認ください。

記

ICR 614.2.3 競技者が止まった後の継続禁止

競技者が完全に止まった場合(例:転倒)、その競技者は、前の旗門やその後の旗門を続けることはできない。

《シングルポールスラローム競技における通過の定義》

ICR 804.3 アウトサイドポールがない場合は、スラロームの通常のレースラインに沿って、ターニングポールからターニングポールまでの架空の線を越え、両足とスキーの先端がターニングポールの同じ側を通過しなければならない。もし 競技者が、ポールをまたぐなどの失敗をしていないにもかかわらず、片方のスキーを失った場合、残ったスキーの先端と両足が、両方の条件を満たさなければならない。外側のポールがある場合(最初と最後のゲート、ディレイドゲート、コンビネーション(ヘアピン、バーチカル))は、第 661.4.1 条が有効である。

以 上